



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月12日

上場会社名 株式会社ハークスレイ 上場取引所 東
コード番号 7561 URL <https://www.hurxley.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 青木 達也
問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 中野 雅哉 TEL 06-6376-8088
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	32,858	1.1	1,679	4.6	1,905	2.9	1,249	△5.8
2024年3月期第3四半期	32,496	25.8	1,605	53.2	1,851	45.9	1,326	60.0

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 1,058百万円 (△26.7%) 2024年3月期第3四半期 1,443百万円 (35.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	67.61	—
2024年3月期第3四半期	72.02	71.92

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	76,523	24,718	32.3
2024年3月期	64,398	24,155	37.5

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 24,703百万円 2024年3月期 24,153百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	9.00	—	15.00	24.00
2025年3月期	—	13.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,000	4.8	2,450	0.6	2,850	10.1	1,800	12.4	97.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社ホソヤコーポレーション

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	19,050,064株	2024年3月期	19,050,064株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	558,930株	2024年3月期	574,850株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	18,484,542株	2024年3月期3Q	18,421,934株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間(2024年4月1日～2024年12月31日)におけるわが国経済は、訪日外客数の増加が続くインバウンド需要の拡大が観光業を中心に回復の兆しを見せ、雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が持続している一方で、為替相場、原材料価格やエネルギーコストの高騰などによる物価上昇、人手不足や最低賃金の引き上げなどによる人件費上昇や、金融政策の見直しによる懸念等もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと当社グループは、「豊かな明日を創造する食のインテグレーショングループ」として、2024年6月に発表いたしました「2028年3月期を最終年度とする中期経営計画」及び「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み方針」に基づき各種施策を取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績及びセグメント業績は以下のとおりとなりました。

(連結業績)

(単位：百万円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期		
			前年同期差	前年同期比
売上高	32,496	32,858	361	1.1%増
営業利益	1,605	1,679	74	4.6%増
経常利益	1,851	1,905	54	2.9%増
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,326	1,249	△77	5.8%減

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(セグメント別売上高)

(単位：百万円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期		
			前年同期差	前年同期比
中食事業	12,796	12,989	193	1.5%増
店舗アセット& ソリューション事業	8,829	9,219	389	4.4%増
物流・食品加工事業	12,698	12,447	△250	2.0%減
その他の事業	557	626	68	12.3%増
計	34,881	35,282	401	1.2%増
調整額(消去及び全社)	△2,384	△2,424	△39	—
計	32,496	32,858	361	1.1%増

(セグメント別営業損益)

(単位：百万円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期		
			前年同期差	前年同期比
中食事業	237	△102	△340	—
店舗アセット& ソリューション事業	1,272	1,368	96	7.6%増
物流・食品加工事業	599	783	184	30.8%増
その他の事業	557	626	68	12.3%増
計	2,667	2,676	9	0.4%増
調整額(消去及び全社)	△1,061	△997	64	—
計	1,605	1,679	74	4.6%増

(注) 2025年3月期第1四半期決算より、報告セグメントである「持ち帰り弁当事業」の名称を「中食事業」へ変更しております。セグメント情報に与える影響はありません。

(店舗数推移)

中食事業 (ほっかほっか亭)

	中間期	2024年10月末	2024年11月末	2024年12月末
既存店舗売上 前年同月比	102.7%	101.8%	101.6%	101.1%
店舗数 (店)	836	836	827	827

店舗アセット&ソリューション事業

	2024年10月末	2024年11月末	2024年12月末
店舗リース 取引店舗数 (店)	847	842	840
不動産管理 テナント数 (店)	152	152	169
稼働店舗数	999	994	1,009

①中食事業

<ほっかほっか亭部門>

人気メニューとして地位を確立した「牛すき焼シリーズ」また、のり弁当にお店で仕込んだ煮たまごを乗せた「のり煮たまご弁当」を発売し幅広い世代に好評をいただきました。

広告施策として、俳優の杉野遥亮さんをイメージキャラクターにした元祖のり弁当が出来る過程を、ほっかほっか亭のコア価値「炊きたて。できたて。お店で手づくり。」を訴求したテレビコマーシャルの放映。また公式TikTok、X (旧Twitter)、Instagramを活用したSNSマーケティングによる認知向上、集客に努めました。

<仕出し料理部門及びセレモニー部門>

WEBでのMTG予約、アレルギー表記などお客さま目線でECサイト (自社HP) のリニューアルを行い新規顧客、リピーターの確保に努めました。

スポーツイベント、学会、貸会議室・イベント会社との取引、一般企業懇親会など受注売上件数も増加し堅調に推移しました。

セレモニー部門については、コロナ禍前の大口案件は少なくなっていますが、お通夜告別セットの件数増加、お別れ会、偲ぶ会などのパーティー形式も増加し回復傾向にあります。

その結果、中食事業の業績は、売上高129億89百万円 (前年同四半期比1.5%増) と堅調に推移いたしました。お米の高騰が著しくその他原材料価格の高騰も重なり利益が圧迫され営業損失1億2百万円 (前年同四半期は営業利益2億37百万円) となりました。

②店舗アセット&ソリューション事業

<店舗ビジネス>

店舗リースに関しましては、飲食店を中心に来店需要の高い優良物件を仕入れるため、既存取引先の退店動向把握及びSNS媒体活用による退店情報入手に注力しました。

また、店舗・建物オーナーに対してマスターリースやリースバック等の施策を実施するとともに、「人 (人材紹介) ・モノ (店舗物件) ・カネ (店舗アセットに関する財務支援) ・情報」の多面的ソリューションを提案いたしました。その結果、店舗リース取引店舗数は前連結会計年度末より11店純増し、840店となりました。

<店舗不動産ビジネス>

自社所有または、管理受託するビルのリーシングにより稼働店舗数を増やす活動及び仕入れた不動産の稼働率向上・遵法性工事等によりバリューアップする活動に注力いたしました。その結果、不動産管理テナント数は前連結会計年度末より28店純増し、169店となりました。所有不動産の稼働建物棟数は17棟、不動産アセットマネジメント対象の稼働建物棟数は7棟となりました。

当第3四半期連結累計期間においては、店舗不動産の新規取得1棟、新規用地取得2区画を実施、販売実績はありませんでした。

<人材採用ソリューション>

2024年10月1日にTRN Global Career株式会社を設立し、飲食業・宿泊業・飲食品製造業・農業・介護業を対象に特定技能外国人の採用支援を行っています。

特定技能外国人は、日本国内のサービス業における人材不足問題を解決し得る存在であり、コロナ禍における店舗再建から新規出店ニーズへの移行が顕著な店舗リース取引先からの期待は大きく、店長クラスになり得る特定技能2号育成支援の整備に取り組んでいます。

また、コンサルティング業界の求人需要が高まる環境下、国内ハイクラス転職の分野でも採用支援実績を積み上げています。

<IT経営ソリューションビジネス>

洋菓子業界を中心顧客層に、予約管理による店舗運営業務改善及び売上・顧客データ分析による販売促進・経営改善のニーズに応えるニッチトップのPOSレジシステム「ninapos」及びカートシステム・会員アプリの開発・提供を行っており、導入店舗数は、年1割程度の成長率で現在1千店を超えて推移し、ベーカリー業界への導入、店舗拡大の取り組みを実施。

また、POSデータをビッグデータとして集積・有効活用する店舗運営コンサルティングサービスにも取り組んでいます。

<パーティー・イベント用品レンタル>

昨年度の大型イベントは減少傾向にあるものの、通常のイベントが増加しケータリング会社・給食業者・ホテルなど順調に売上・納入先ともに増加傾向にあります。

その結果、店舗アセット&ソリューション事業の業績は、売上高92億19百万円（前年同四半期比4.4%増）、営業利益13億68百万円（同7.6%増）となりました。

③物流・食品加工事業

<物流部門・カミッサリー部門>

単身・共働き世帯の増加などを背景に惣菜市場が拡大する中、既存取引先の拡大と新規取引先の獲得及びカミッサリーの稼働率向上を目標に掲げ取り組んでいます。

<菓子製造部門>

定番商品は好調を維持しており、ドラッグストア・大手スーパーを中心に導入店舗数も順調に伸ばすとともに、訪日外客数の増加に伴い、インバウンド商品が好調に推移。

クレイジーソルトナッツは日経MJのバイヤー調査で総合評価首位を獲得し、開発を進めていた秋冬新商品の発売も決定し、順調に導入が決まっています。

谷貝食品の茨城県産干し芋、千葉県産落花生などは、国産原料の在庫と仕入価格が安定し、輸入原材料の高騰、包装資材高騰が続くなかでも原料原価率の上昇を抑えています。

また、キャラクター、タイアップ商品の販売を開始しました。

その結果、物流・食品加工事業の業績は、商品導入店舗数及び売上が順調に推移いたしました結果、売上高124億47百万円（前年同四半期比2.0%減）となりましたが、販売手数料の処理による影響を除くと前年同四半期比は5%増となります。営業利益は売上高の増収による増益効果及び生産コスト低減により営業利益7億83百万円（同30.8%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は765億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ121億25百万円増加しました。これは主に株式会社ホソヤコーポレーションの全株式を取得し完全子会社したことに伴い、受取手形、売掛金及び契約資産、商品及び製品並びにのれんが増加したことによるものです。

負債合計は518億5百万円となり前連結会計年度末に比べ115億62百万円増加しました。これは総資産と同様に連結範囲にグループ会社が増加したことに伴い、借入金及び仕入債務が増加したことによるものです。

純資産は247億18百万円となり前連結会計年度末に比べ5億63百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年5月15日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,611	14,687
受取手形、売掛金及び契約資産	3,068	4,912
商品及び製品	7,574	9,722
原材料及び貯蔵品	729	827
その他	1,704	1,827
貸倒引当金	△19	△44
流動資産合計	27,668	31,932
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,241	10,127
機械装置及び運搬具（純額）	1,108	1,428
工具、器具及び備品（純額）	191	241
土地	12,258	13,026
リース資産（純額）	115	103
建設仮勘定	132	494
有形固定資産合計	23,047	25,422
無形固定資産		
借地権	3,480	3,480
のれん	490	6,618
その他	201	204
無形固定資産合計	4,172	10,302
投資その他の資産		
投資有価証券	4,190	3,387
長期貸付金	3	54
敷金及び保証金	4,785	4,959
繰延税金資産	134	93
長期未収入金	420	406
退職給付に係る資産	106	106
その他	277	293
貸倒引当金	△408	△435
投資その他の資産合計	9,509	8,865
固定資産合計	36,729	44,590
資産合計	64,398	76,523

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,574	4,773
1年内償還予定の社債	7	14
短期借入金	1,965	9,233
1年内返済予定の長期借入金	5,155	8,648
未払金	1,012	1,176
未払法人税等	591	139
未払消費税等	184	318
賞与引当金	285	182
その他	2,830	3,204
流動負債合計	15,606	27,692
固定負債		
社債	58	37
長期借入金	19,507	18,775
長期預り保証金	4,203	4,338
繰延税金負債	55	60
退職給付に係る負債	20	43
資産除去債務	530	539
その他	262	319
固定負債合計	24,636	24,113
負債合計	40,243	51,805
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,036	4,036
資本剰余金	1,904	1,902
利益剰余金	18,229	18,961
自己株式	△391	△380
株主資本合計	23,779	24,520
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	373	183
その他の包括利益累計額合計	373	183
新株予約権	2	2
非支配株主持分	—	11
純資産合計	24,155	24,718
負債純資産合計	64,398	76,523

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	32,496	32,858
売上原価	21,379	22,134
売上総利益	11,117	10,723
販売費及び一般管理費	9,511	9,044
営業利益	1,605	1,679
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	105	63
投資有価証券売却益	97	211
受取手数料	68	45
受取賃貸料	16	—
業務委託契約解約益	14	37
その他	90	58
営業外収益合計	394	418
営業外費用		
支払利息	65	121
支払手数料	40	33
業務委託契約解約損	3	7
持分法による投資損失	3	12
その他	35	17
営業外費用合計	148	192
経常利益	1,851	1,905
特別利益		
固定資産売却益	4	1
投資有価証券売却益	47	—
受取補償金	28	97
受取和解金	11	11
その他	0	2
特別利益合計	92	111
特別損失		
固定資産売却損	1	1
固定資産除却損	49	22
減損損失	10	—
支払補償金	—	54
その他	5	10
特別損失合計	66	87
税金等調整前四半期純利益	1,877	1,929
法人税、住民税及び事業税	496	557
法人税等調整額	54	123
法人税等合計	550	681
四半期純利益	1,326	1,247
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,326	1,249

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,326	1,247
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	117	△189
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	116	△189
四半期包括利益	1,443	1,058
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,443	1,046
非支配株主に係る四半期包括利益	—	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	855百万円	964百万円
のれんの償却額	128	129

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	中食事業	店舗アセット &ソリューション事業	物流・食品 加工事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	12,691	3,581	11,201	27,474	—	27,474
一定の期間にわたり移転される財	20	—	—	20	—	20
顧客との契約から生じる収益	12,712	3,581	11,201	27,495	—	27,495
その他の収益	0	5,000	—	5,001	—	5,001
外部顧客への売上高	12,713	8,582	11,201	32,496	—	32,496
セグメント間の内部売上高又は振替高	82	247	1,496	1,827	557	2,384
計	12,796	8,829	12,698	34,323	557	34,881
セグメント利益	237	1,272	599	2,109	557	2,667

	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
売上高		
一時点で移転される財	—	27,474
一定の期間にわたり移転される財	—	20
顧客との契約から生じる収益	—	27,495
その他の収益	—	5,001
外部顧客への売上高	—	32,496
セグメント間の内部売上高又は振替高	△2,384	—
計	△2,384	32,496
セグメント利益	△1,061	1,605

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ支援事業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,061百万円には、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,062百万円が含まれております。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

〔中食事業〕セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において10百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	中食事業	店舗アセット &ソリューション事業	物流・食品 加工事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	12,928	4,793	10,943	28,665	—	28,665
一定の期間にわたり移転される財	23	—	—	23	—	23
顧客との契約から生じる収益	12,952	4,793	10,943	28,688	—	28,688
その他の収益	8	4,149	11	4,169	—	4,169
外部顧客への売上高	12,960	8,942	10,954	32,858	—	32,858
セグメント間の内部売上高又は振替高	28	276	1,492	1,798	626	2,424
計	12,989	9,219	12,447	34,656	626	35,282
セグメント利益又は損失(△)	△102	1,368	783	2,050	626	2,676

	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
売上高		
一時点で移転される財	—	28,665
一定の期間にわたり移転される財	—	23
顧客との契約から生じる収益	—	28,688
その他の収益	—	4,169
外部顧客への売上高	—	32,858
セグメント間の内部売上高又は振替高	△2,424	—
計	△2,424	32,858
セグメント利益又は損失(△)	△997	1,679

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ支援事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△997百万円には、セグメント間取引消去2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,000百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

当第1四半期連結会計期間より、従来の「持ち帰り弁当事業」を「中食事業」へ名称を変更しております。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント名称にて作成しております。